

1 「統計」は満134歳!

・ わが国で「統計」という言葉が正式に誕生したのは、今から1世紀以上も前の明治4年7月27日(1871年)のことです。舌を嚙みそうな英語、「Statistics(スタチスチックス)」の日本語訳を含む国の組織「大蔵省統計司(とうけいし)」が、あの千円札で有名な「伊藤博文」氏の提案で設置されたのが始まりとされています。それまでは、製表、形勢、表記など様々な訳語が使われていました。しかし、明治13年3月(1880年)、国の太政官正院「製表課(せいひょうか)」が太政官「統計課(とうけいか)」に改称されたことで政府内の用語が統一され、それから「統計」という言葉が社会全体に普及していきました。

(伊藤廣一著「統計歴史散歩」2000.6.1抜粋)

・ 日本経済新聞(2005.8.10)によりますと、英語では統計を表わす言葉に「国家」の意味が含まれるのに対し、日本語の「統計」には国家の意味が含まれないそうです。むしろ「合計」とか「総計」を意味するものであったとのこと。お国柄の違いが出ていて面白いですね。それから「統計」は本来、漢語であったのに、明治後期に日本から中国に逆輸入され今では中国でも「統計」が用いられていることも紹介されています。

英語	Statistics(スタチスチックス)
フランス語	Statistique(スタチスチクー)
イタリア語	Statistica(スタチスチカ)
スペイン語	Estadística(エスタディスチカ)
日本語	統計(とうけい)
中国語	統計(トンジイー)
韓国語	통계(トンゲ)

(日経新聞2005.8.10「ゼミナール日本の統計改革④」抜粋)

(県生活・文化部国際室等の協力による)

2 平成18年度の政府予算案固まる! 調査員報酬1日単価は6,720円

・ 平成18年度予算の財務省原案が、平成17年12月20日(火)各府省に内示されました。これを受け、全国47都道府県で構成する「都道府県統計連絡協議会」は会報第51号(18.1.13)を通じ現時点で収集した「平成18年度統計関係予算(地方委託費分)」の概要を知らせてきました。そのうち県や市町村が特に関心のある「調査員報酬」は1日単価6,720円(前年比▲20円)となっています。これは、例年通り国家公務員給与表の2級2号俸相当を基準に査定されたもので、国家公務員の人事院勧告を受け若干の引き下げとなったものです。統計予算の概要を会報の「平成18年度政府予算案総括表(統計予算・地方公共団体委託費)」をご覧ください。

(単位:百万円)	17年度予算A	18年度要求B	内示額C	増減C-B	査定率C/B
総計	81,127	26,464	26,152	▲312	98.8%
人件費	12,865	12,005	12,081	76	100.6%
事業費	77,206	14,460	14,071	▲388	97.3%
総務省	64,875	11,368	11,001	▲367	96.8%
経産省	2,258	1,967	1,949	▲19	99.1%
文科省、厚労省	1,129	1,124	1,122	▲2	99.8%

“冬来たりなば春遠からじ”



河津桜(河津町観光協会HP)